講義名	情報倫理（経済情報学科：1年生+2年生以上）					授業形態	
担当教員	三谷　哲雄	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 ２時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

■注意■
※PDFファイルでは全ての内容が表示されない場合があります．必ずRYUKA Portalから参照できるシラバスのWebページを確認してください．
※本シラバス内に記載している「キャンパス クロス」は，本学で2023年度から導入(予定)される新しい学修支援システムの名称です．「キャンパス クロス」の概要や使い方などは，教務部に問合せてください．
※この科目は，「対面のみで実施する」科目です．詳細は，「履修にあたっての注意・助言他」に記載していますので必ず確認してください．
※「備考」には，「受講上のアドバイス」を記載しています．必ず確認してください．
■■■■■

インターネットの普及に伴い、電子メールでの迷惑行為、Webサイトでの詐欺行為、不正アクセスによる情報漏洩、著作権の侵害、文化摩擦など、日常生活において、これまでにないトラブルが生じている。このようなトラブルを避けるため、「情報倫理」では情報社会で生きるために必要な最低限の知識を身につけることをめざす。

到達目標

受講生は、インターネット社会における加害防止や被害防止のために一人一人に求められる基礎的な資質を習得することで，情報社会をこれまでよりも安全に生きることができるようになる．

具体的には，次の点の習得を目指しています．１つは，「インターネット社会（あるいは情報社会）において，生活者がネットワークを利用して，互いに快適な生活を送るための規範や規律」という「情報社会の倫理」の修得です．加えて，生活する上できっても切り離せなくなってきたインターネット社会を生き抜くために，そこで起っている様々なトラブルに対する被害防止，加害防止のための「体系的な知識」の修得です．またそれらのトラブルは，日々変化しています．それに対応した「最新の知識」を修得することも重要です．

提出課題

授業の進捗および内容に応じた複数回のレポート課題（宿題として）を予定している。提出方法は，次のとおりである．

1) 授業中に課題を提示
2) 指示された課題の作成要件および課題要件を満たすような課題成果物（Wordファイル）を作成
3) 次の授業の３日前(予定)の13時までにキャンパス クロスで提出する（提出用のレポート課題を提示）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

翌授業日の開始直後に個々の内容を踏まえた総合的な講評を行う予定である．

評価の基準

提出課題と定期試験により到達目標に対する達成度を評価する。点数は，提出課題（宿題としてのレポート課題）に40%、定期試験(もしくはそれに相当する課題)に60%を目安として配分し、100点満点で算定する。

履修にあたっての注意・助言他

(0) 授業の実施方法
1) 実施形態
この科目は，「対面のみ(で実施する)科目」です．途中から対面とオンデマンドの並行開講に移行することはありません．全ての授業を対面で実施します．理由は，オンライン形式の授業では，到達目標を達成することが困難なためです．
2) 学校感染症の中で特に新型コロナウイルス感染症による影響で一時的に通学が困難となった場合
当該学生には，通学停止期間中の対面授業の講義資料の配布，授業動画の提供，通学停止期間中に提出期限が設定された課題の別途提出許可，要望に応じて補習授業の提供，などを必要に応じて実施します．詳細は，該当する授業日の担当教員の指示に従ってください．

(1) オンラインサービスやICT機器の利用
本科目では，授業に関する動画の視聴のために，Microsoft社が提供している動画共有サービス「Stream」の本学専用サイト（大学のアカウントとパスワードでログイン必要）を使います．視聴方法は，講義連絡にて連絡します．
また，授業中に授業に関連するWebページの閲覧や検索などを行います．通信の可能なPCやタブレット，スマホなどの端末を持ち込んで構いません．もちろんなくても問題ありません．

(2) 受講のコツ
講義内容は、普段からよく見聞きする事柄も多いと思います。しかし、詳しいことまでは意外と知らないこともたくさんあります。また情報倫理に関わる事柄は多岐にわたります。個々の事柄は簡単でも非常にたくさんの知識を修得しなければなりません。そのために、知っていることも、知らないことも、講義中はしっかりとメモを取ってください。知っているかどうかは後で判断してください。授業で得たことを自分の知識や経験に照らし合わせて，自分に必要な知識を自分自身で見つけ出し，この授業を機会に確実に吸収（記憶）していくことをお勧めします．

教科書

.インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版.	情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ	実教出版	495	9784407346213

参考図書

.なし.				

その他

適宜資料を配布する。なお資料は，キャンパス クロスの講義連絡にてPDFファイルとして配布する．参考文献は担当教員が必要に応じて指示する。

資料への記入は，印刷物に行っても，PDFファイルに直接入力しても構いません．ただし，昨年の受講生の様子を見ると，印刷物が簡単そうでした．PDFファイルへの入力は，タブレット型PCなどを使い慣れた受講生の場合は，何の問題もなく手書き入力をしているようでした．ラップトップ型PCやデスクトップ型PCの場合は，ペン入力できるものであればタブレット型PCと同様に入力可能ですが，ペン入力できない場合はキーボード入力となります．この場合，キーボード入力にかなり慣れていないと難しいかもしれませんね．ということで，おすすめは，「印刷物」です．が，これを機会に，PCなどで「ノート取り」にチャレンジしてもよいかもしれませんね．

PDFファイルへの追記や保存などの操作は，WindowsPCであれば，Microsoft EdgeやAdobe Acrobatで可能です．また，Microsoft OneNoteに取込めばさらに自由な書込みやノート作成などが可能です．一方，スマホやタブレット(Windows以外のタブレット)では，大学アカウント・パスワードで利用できるOneDriveアプリで閲覧・操作ができるようです．なお，Apple社製の携帯端末のブラウザSafariでは，パスワード設定済PDFの場合，パスワード入力を求められて操作できないようです．OneDriveアプリの利用をお勧めします．

授業計画

(1) 基本方針
到達目標である【情報社会の倫理】や【体系的な知識】に関しては，６つの講義項目(※1)について，教科書や補助教材を使って体系的に学びます．また，【最新の知識】の習得のために，Web記事「ニュースサイトなどに掲載されているニュース記事や解説記事，コラム記事など」を活用して，いまインターネット社会で起こっている様々なトラブルの実態やその原因，対策などについて考えます．「レポート課題(提出課題)（詳細は１回目の授業にて説明）」は，授業の進捗に合わせて，宿題としてほぼ毎回実施します．【定期試験】は実施しません．その代わりに，授業全体の総まとめとして「定期試験に代わる２つの課題（詳細は１回目の授業にて説明）」を授業の最終日に実施します．

(※1) ６つの講義項目
Ⅰ．インターネット社会（情報社会）におけるの情報倫理の果たす役割
Ⅱ．個人情報の大切さとその扱い方
Ⅲ．知的財産を守るために
Ⅳ．ネットにおけるコミュニケーションとマナー
Ⅴ．情報社会における生活の変化
Ⅵ．インターネット社会で安全に過ごすために

(2) １回の授業の基本的な流れ（詳細は１回目の授業にて説明）
２回目以降，基本的には次のような流れで授業を進める予定です．講義に関連する資料(PDFファイル)は，１週間程度前までにキャンパス クロスにて事前に配布する予定です．予習動画は，約１週間前までには公開予定です．
1) 予習　：講義に関する資料や教科書と共に予習動画を使って事前学習
2) 授業中：事前学習の内容の要点の再確認，授業に関わるWeb記事の紹介や解説，事前学習の内容を踏まえたWeb記事に関するディスカッションなどを予定（前回の宿題講評や当日の宿題提示なども含む）
3) 復習　：資料や教科書などで復習．宿題としてのレポート課題（提出課題）の実行・提出

(3) 動画活用
本科目では，予習動画に加え授業動画も用意します（予定）．授業動画は，授業中の教員PC画面や音声を収録した動画で，授業の復習用に公開します．必要に応じて活用ください．

(4) 実施スケジュール
01　　イントロダクション
ーー
講義項目Ⅰ～Ⅵごとに，２回を１セットで実施する
①講義項目の事前学習内容の要点の再確認・Web記事の解説・レポート課題提示
②講義項目の内容を踏まえてWeb記事を使ったディスカッション・レポート課題提示
02　　[Ⅰ.] の①
03　　[Ⅰ.] の②
04　　[Ⅱ.] の①
05　　[Ⅱ.] の②
06　　[Ⅲ.] の①
07　　[Ⅲ.] の②
08　　[Ⅳ.] の①
09　　[Ⅳ.] の②
10　　[Ⅴ.] の①
11　　[Ⅴ.] の②

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

基本的には，講義形式，です．講義中に，携帯端末（携帯電話や通信機能付きPCなど）を利用して，授業に関わるキーワードやニュース記事，解説記事などのWeb検索や

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義資料（配布資料や授業動画など）や教科書の該当箇所を用いて予習をしてください．講義終了後には当該箇所を復習してください。講義資料や授業中に示された情報倫理に関係するニュース記事や解説記事などには目を通しておいてください。これらの準備学習に毎回4時間程度をかけることを目安とします。もちろん，レポート作成もこの中に含みます。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卒業認定・学位授与の方針（DP:ディプロマ・ポリシー）に示されている要件に対する当該授業科目の寄与の程度を行頭の [] 内に４段階（０～３）に分けて記載する．各段階の意味は，教務部の指示に従った．

(1) 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材
[0] 夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる．

(2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
[3] 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)
[1] 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）
[1] 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)
[0] さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)

(3) 創造力（新しい視点と豊かな発想)を持った人材
[0] 新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる

(4) 自主・自立の精神を持った人材
[0] 物事に自ら進んで取り組むことができる
[0] 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる
[0] 自ら課題を設定し、それを解決に結びつけることができる

(5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
[0] 他者に働きかけ、協力を取りつけることができる
[0] 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

基本的には，講義形式，です．講義中に，携帯端末（携帯電話や通信機能付きPCなど）を利用して，授業に関わるキーワードやニュース記事，解説記事などのWeb検索や閲覧など行う場合もあります．また，受講生には，講義に関わる発言を求めることもあります．さらに，Web検索や発言のテーマは，事前学習で予習してきた内容に基づくものであり，その意味では，反転授業の要素も含まれます．

実務経験の有無及び活用

備考

■受講上のアドバイス■

(1) 講義に関する情報はRYUKA PortalのMy時間割やキャンパス クロス(RYUKA Portalからもアクセス可能)で確認すること
受講生の皆さんへの連絡（講義に関する案内，講義資料の配布，レポート課題の掲示など）は，授業中だけではなく，適宜，RYUKA Portalやキャンパス クロスでも行います．講義資料の配布ページには，掲載期限があります．掲載期限を過ぎたら，閲覧やファイルのダウンロードができなくなります．連絡を受けたら速やかにダウンロードし，自分のPCやスマホなどの端末に必ず保存してください．レポート課題には，提出期限があります．また，レポートを提出した後は，その提出状況を必ず確認してください．

(2) 講義資料